

だしき冷遇を受るとも。吾願の届くまでは。飽くまで根強く耐  
忍して。一步も退るぬ覺悟で御坐る

(不慮多) イヤ、貴殿はあの哥畧拉那よ。父の如く敬まられて居

らるれば。必ならず厚き待遇を受て給ふも相違御坐らぬ

(麥尼紐士) さらば參らん各方

ト立ち上る

との云へどふも

(一同)

(麥尼紐士) 吾力の及ばん限り

(古美紐士) 國は爲め又た家の爲め

(麥尼紐士) 屹度尽力仕らん。何れ兎もあれ

(西齊士) 首尾よき報道

(不慮多) 首を伸ばして

(一同) 相待申と

トよろしく思入あつて。麥尼紐士花道へ歸る。一同見送りて

(古美紐士) イヤ 仮令麥尼紐士殿が行ゆるゝとも。必定無功で御坐

るふ

(兩民長) そり又たなせに

(古美紐士) さればさ哥畧拉那殿の顔を見るも。眼は羅馬を焼くが

如く。口の羅馬人を喰ふが如く。ろの恐ろしきおど怒れる獅子を

かくやと思ふ計り。中々側へも寄り付くれぬ。ろの有様。剩さへ。貴

殿方へ行われし苛酷なる取扱。哥畧拉那殿の胸一ばい。塞が

りて。羅馬を助くる感情を。抑制する番兵となり居れば。某や麥尼

紐士殿が行きたとて。中々聞き届けらるゝことでは御坐らぬ。故

に。哥畧拉那殿の心を動かし。羅馬を助くる此念を起さまむるも

のい。只だ哥畧拉那殿の母人内室及び子息もあるのみ。聞けばあ



の人々を。國の爲め自ら敵陣へ行ふんど。決心なし居らるゝ由  
されど一日を早くこの人々を。和睦の事を依頼して敵陣へ赴  
ぎて貰らふが上策にて御坐らぬ。各方の御所存如何で御坐る  
(西齊紐士) ソレ いかよもよき所へお氣が付けられ。仮令山を  
裂きの勇ある哥畧拉那も。母や妻子も泣き付けられて。心挫け氣  
力撓。後には和睦を免るすよ相違御坐らぬ  
(不慮多) さよふ 〳 今日よも 麥尼紐士殿が。空しく歸られしその  
時に

(西齊紐士) 古美紐士殿の詞の通り

(不慮多) 彼の人々へ頼むて御坐るふ

ト皆々よろしく在る。おにて道具まわる

羅馬此近郊窩爾西陳營の場

本舞臺門前の休みて。正面お大なる陣門を見せる。こゝよ麥

尼紐士花道より出て來り。門前に止まりて。あちあち見廻し  
す門内より三人の番兵鎗を携へて出て來り

〇 コリヤ 〳 其方はいづれへ參るものた

(麥尼紐士) 察する處。貴殿方の。この陣營を守らるゝお方ならん。某  
ことの子細あつて。大將哥畧拉那殿も面會致度。是まで參りしも  
此なれば。何卒お通し被下るべし

〇 シテ いづれより來りしものじや

(麥尼紐士) 羅馬府より參りまもので御坐る

〇 羅馬府とあれは通すおとは相成らぬ。我大將哥畧拉那殿の。羅  
馬府よりいかなることせを申し來るも。中々お聞取なされはせぬ  
お目にかゝるを無益のことじや。早くことを立去れよ

□ 其方が我大將のお目より。對談致すその中より。汝が住所  
の羅馬府の。烈しき火焰となるならん。無益のことをなさんより



一足でも早く立歸り。妻子と別の盃なし死出の用意を致そがよ  
めらん

(麥尼紐士)その御心添添けなし。去なぐら某は大將の舊友よて麥  
尼紐士と申そももの。決して胡散なものよ候はぬが。曲めて入門を  
お許し被下

△仮令其方の名の何よもせよ。又た大將の舊友よとせよ敵の奴  
原と聞く上り。一足たりととこの内へ。踏込まそるふと

(一同)叶はぬく

(麥尼紐士)さらば一層委しき話をお聞おせ申さん。某と大將との  
間柄の殆んど骨肉の親子と一般。常に大將よの某を。父よ父よと  
馴れ慕われ。某もまた親の如き。始終大將を補翼せり。うれのみな  
らず某は虚言を吐くこと大嫌ひ。一寸のふと一寸と云ひ。一  
尺のふと一尺と云ひ。違ひしこと一言を唇より外へ漏らせ

しことなまされど大將の軍功の。一寸のものは五寸と褒れ立て  
一尺のもの五尺と言ひ。觸らし。常々大將此身の上を。固ひ守り  
し某なれば。敵の敵と味方同然。決して悪き事い致さぬ故。何卒  
まの門お通し被下  
○ エ、ツベコペと口賢き奴。其方何程陳述するともこゝ通るま  
とは罷りならぬ

(一同)立歸れく

(麥尼紐士)さふガヤくと申されぬ。某が名ハ麥尼紐士とて。大將  
哥略拉那殿まだ羅馬に居られ志節。平民と闘争せられたるの折  
みも。常々大將の味方となりたるもので御坐る

エ、しぶとい老爺奴。今ろの方が云ふ如く。如何程大將の爲め  
お尽力きたよもせよ。ろは大將が羅馬に居られしときの話。敵同  
士となりたる今日にては。時代違ひの紙幣同様。少しも役よ立た







門の内より出て来る

(哥畧拉那) コリアろの有さまは何事なるぞ

(番兵) ハ、ア

ト狼狽ながら一方へひるゆる麥尼紐士よろしく在て

(麥尼紐士) コレ番兵共。今ある某が鄭重に扱ひるゝを見せて呉れん。まさ某が子哥畧拉那殿に。其方共が働さし。過言無禮の程を告ぐ。一人を殘さず罪お処し。最前の無禮を思ひ知らせん。逃げ亡くれずと待て居れ

ト哥畧拉那の方お向ひ

イヤナニ哥畧拉那殿。イヤサ 吾子貴殿は故國羅馬を焼き拂はん。用意をなし居らるゝ由。誠と驚き入る。傍坐る。某の此度此陣所へ使に參れと勧められ。再三再四拒たれども。貴殿の心を宥むる者は某より外はなき故。是非共使お立ち呉れよと。涙と

共と頼まれて。某をあれを辞むに由なく。止むなく羅馬府門を出て嘆息の風を吹き送られ。漸くおゝまで參て御坐る。コレ哥畧拉那殿。羅馬の無禮をお怒りあるの御尤のあと候へ共。あれが爲めに。羅馬府を焼き拂ひ幾百万の生靈を。天の一方は彷徨はしむるの。誠と仁人のなさいること。うれのまならず府内おは貴殿の親愛なる母上始々。内室御子息を居らるれば。何卒あの度はおん止まり被下るべし。舊誼薄らざる某が。羅馬人民となりあり斯く地上に墮つき。コレお此通り手を合せお願ひ申と哥畧拉那どの

(哥畧拉那) 歸れ去れ

(麥尼紐士) ナニ去れとな。スリヤまたなせよ

(哥畧拉那) さればさ好く聞け。我を國に在りし時。麥尼紐士と云ふ人を義父として尊みしことをあり。古美紐士と云ふ者を義兄



として事へしあどもあり。又た母や妻子もなうりしにはあらざれども。今は本國を追放せられ身を他國に委ねられ。羅馬の哥略拉那の死したと同然。かくを此云ふ某あり。窩爾西の大將哥略拉那羅馬は即ち吾敵國。此期は臨まむ舊友や母や妻なし役立たぬ。無益の詞を費さんより。歸りた方が宜いと云ふのだ。併し敵味方との云ながら。幾分か。仁の存する處をあれば。埃腓丟士殿及び某の情を以て。あの要求書を使節は渡さん

ト要求書を渡そ  
あの書のことを執行する。甚だ六ヶ敷おとならず。國や命との換へらるまいぞ。あれ丈ヶ言へば外は聞かすことのみ。怪我せぬ中も早く去れ。早く去らぬと怪我するぞ  
トよろしく在て埃腓丟士に向ひ  
イヤナニ大將最早。あゝに聞事は御坐らぬ。館は歸り緩りと万事

評定仕らん

(埃腓丟士)ア、鐵に等まき貴殿の勝。某感心仕る向の兎もあれ館  
と歸り申さん

ト兩人四人の兵士を従へて門内へはいる。麥尼紐士茫然と見送ることよろしく在る

○オイ、貴殿は。矢張り。麥尼紐士とやらん云ふ人では坐るるな  
□某の大將の義父だとか大將お尋まれるは當然だとい。其方共よひどひ目見せて呉れんとか。口から出鱈目を言ひ居る。今のさまは。ア、リヤあんだ。麥尼紐士やら。猫やら犬やら。さつぱり分かれぬではないか  
○我々が早く歸れと云ふたは。この事だ。コリヤヤイ。このよふ泣面をするな。エ、縁起は悪い畜生だ。早く行るぬ。







き貴殿の心底。委敷。議事官等、披露致し、屹度お執成仕らん。此儀の傍心配あらるゝな。ソレハそふと。昨日哀訴も参たあの老人は一体何物で居坐るぞ

(哥畧拉那) さればで御坐る。あの二度目あ来りし老人ころ。某が常ふ父よ父よと敬ひし。議事官麥尼紐士亞克立巴で御坐る。羅馬此市民があの人を。吾陣營よ送りし最後の窮策よて候ん。某も外面よては。いと辛く待遇せしり。ど。舊情故誼忍び難く。五臟六腑も斷つ計り。あの要求書を送りしを。羅馬を救ふ爲ならず。只だ彼の老人よ花を持たせん。某が微志。かゝる親密なる舊友を。あくつれなく扱ひし。我も二心なき証據なれば。貴殿よろしくお察し  
被下  
上折しを騒ぐ陣屋の外  
トがやくと騒々しきなる

上哥畧拉那耳ろば立

(哥畧拉那) ヤアあの聲は何事ならん

上外面を覗ふ程もなく。雑兵共よ伴はれ。あこに入り来る一群の跡を媚たき女連。屠所の羊れららで虎の尾を踏む。牝羊の進み兼ねる。ろの風情。雨お悩みし糸柳の。風よ吹かるゝ如くなり

トあこへ窩流美亞窩留路利及び一子馬爾士亞續ひて華列利五六人の番兵よ送られて花道より出て来る

上それと見るより一人の雑兵椽側近く手をつゐへ

ト一人の番兵下段に手をつき

(番兵) ハ、申上姓。只今陣屋此門前よ。是れなる女連来りし故何用あるやと訊ねし所。是非とも哥畧拉那大將よ。面謁を願ひ度しと申せよ付止む。あく御前へ引き連れて御坐ります



上云ふを打聴き誰ならん。眺むる目先も見合を顔  
 (哥畧拉那) ヤア、あなたい母上。女房を悴と打連れ立て  
 (窩流美亞) オ、そなたは悴か

(窩留路利) 我夫か  
 上「我子我夫父様と。椽が近く駈り寄り。見上げ見下を顔と顔愛  
 變し戀し口籠る。親子夫婦の情愛の先立の涙を噎あり。哥畧  
 拉那の遺も他人の手前耻らひて。堰き来る涙與齒咬ミ  
 め乱せし衣紋取繕ひ

(哥畧拉那) 母上始め皆々が。うく連れ立て來りし。羅馬を救ふ爲  
 ならんなれども我身今は本國を追放せられ。身を他國に寄せら  
 れば親子夫婦又繋される。恩愛二條の天繩も切りハせざれど切  
 れど同然。又た吾と羅馬は出生の好まあれど。今の毛髪容れざ  
 る敵と敵されば羅馬の平民が。母上始て妻や子を。我目前めて劈





まども。決し。羅馬を救し難き我も一ケの武士なれば。女々しき  
 継よ。絆されて。吾恩國窩爾西。約せし詞。此變らるべき。あゝらよ  
 御合點行きたれば。怪我過のない中。に一時を早く。歸り被下  
 上罪ど。ガを。あき母親や。戀ま可愛の妻や。子を斯く強面なく。扱ふ  
 も大將の前兵士の手前。我儘ならぬ。武士の意地。堪忍し。たべ  
 赦して。給をも。云ふに。云はれぬ。胸中。理せめて。憐れなり。母の  
 涙に。朦朧たる老の眼を見開きて。云へんとすれば。尙更。水嵩  
 まさる。涙川。わつと計り。泣き沈む。窩留路利。ろれを察し。漸々  
 涙押拭ひ

(窩留路利) ソリヤ 吾夫よはどふあつても

(哥畧拉那) どふ在てもそれ願は

(窩留路利) 聞届けて被下ませぬ。エ、そりや吾夫の御胴。愆。假令  
 羅馬の人民よ。重き怨のあるもせよ。又た窩爾西。此人々に。受け



志恩義のあるよもせよ

上「あは美しい羅馬府を塵も止めず焼き拂ひ。幾百万の人此をか

天よも地にも二人なきいと可愛い母上や。あは子や妻を生

きなながら焦熱地獄に落さふとは鬼見たよふなそのお心

情ないではないのいナア

上「夫の旅立なされてより。せつあきむねの上よ鳴く鳥の聲や獨

寝の寒けき床よりとくと。結ぶ夢さへ憂は種。今日は便があ

ること。明日の行衛が知れふりと。常は短かき一夜を思へば

永き百千年。まつの常盤の色染て暮せし甲斐も情なや

思ひもろぬ今日の有様

上「まだろの上よ恨めまゝ。二世も三世も階老を替ひし夫婦は繫

がれる縁切れたとは

コレマア申し何事ぞへナア

上「この子が可愛い。いぢらしいと泣きほ嘆ちつとつをひつ。鵬の

羽掻き此百はがき。うき口説をさそ道理あり。哥畧拉那も不憚

よ思ひ

(哥畧拉那) コレ女房。我も木石よあらざれば。羅馬のことは忘るど

も争てか妻子を忘るべき。先の詞の赦して給も。イヤナ。大將

暫し汚免被下るべき

上「浮む涙を拂ひつ。哥畧拉那は椽を下り。ト下段よをりる

(哥畧拉那) コレ女房手を出せ

上「飛立討りよ思へども。遠が女の恥りしく。ハ。イ。どのみよて出し

兼ねる手先をやをら握り。メ。メ。哥畧拉那は聲をひそめ

我れ汝も別れてより。未だ一度も婦人此手を握りしことなきぞ

や

上「戀志く。と相方が互みひたと抱き付き接吻なせ志心こそ。實



又英雄の羈なれ

ト兩人挨拶することよろしく在る

上 哥略拉那はそれと気が付き

ト哥略拉那きつとなり

(哥略拉那) ヤアコレハ 粗忽千万。まだ母上は御挨拶も不仕。平

御免被下さるべし

上 地上はひたと手を突けば。母親急み押し止め

ト哥略拉那地上は跪づく。母親とたる。

(窩流美亞) なんのろれ。及びませふ。この母ころ。うなれ。向て跪

かねばなりませぬ

上 言ひつゝ。地上は跪く。哥略拉那不審顔

(哥略拉那) 母上は。何故かく謙遜し給ふぞ

上 問へば。母親後を指さし

ト窩流美士華列利の方を指さす

(窩流美亞) これ悴れを見や。華列利様も何のよふ。地上は跪ひ

て居られます。又々此孫まで。可愛いさふ。涙を流して泣て

居ります

(哥略拉那) コレハ 華列利様は御苦勞千万。サア華列利様母

上様。どふぞお立ち直り被下。サア悴も立て

上 聞て小供の皺面作り

(子) 父さま。坊はいけまで坐て居ても。だいじない故。どふぞバ

様や。うゝ様の言ふ玉の。と。聞て上て被下ませ

上 言はれて親の堪り兼ね。恩愛此涙。ハラ 母のこゝぞと

氣を勵まし

(窩流美亞) コレ 悴その涙の恩愛の切なる處より。涌て出でし。も此

あらん。左程子や女房を。いちらしく思ふなら。なせ願を叶へ玉呉



れぬあれ。華列利様まであの通り。両手を合せて拜んで居らるゝ  
 てはあいの。エ、コレ。悴私の恨を晴さんが爲た。多の人を殺害し  
 刺さへ血筋繋がる母や子。無残な最後を遂げさそが。英雄豪傑  
 の人情。又た驍師勇將のなほ事か。あの位なことを辨まへぬそ  
 なたでもなかりし。如何ある天魔の見入りしやら。人情道理を  
 辨まへぬ。悪鬼となるとは情あひ

上「後云ひさして。泣沈めば窩留路利は詞を次ぎ  
 (窩留路利)若しも羅馬が焼かれなば。妾の因果とあきらめて。灰と  
 も火ともなりませふが。何にを知らぬ。稚子。ごふ。マア成佛出来  
 ませふ。うれを不便と思召さば。ごふぞ今度の進撃は。思ひとまり  
 て被下ませ

上「慈悲じや情じや吾夫と。両手を合せて代志拜めば。頑是なく子  
 は立上り

(子)かゝ様。そのよふお泣きあさるゝな。あの坊の強いから。仮  
 令十人うゝつて来ても。あの刀を抜いて。皆んな殺してやります  
 る

上「聞く父親は胸板に。釘を打たるゝせりなさに  
 (哥零拉那)エ、くだらぬ事。長居を致した

上「云ふも苦しき胸の中。思ひ定めて奥深く。入らんとするを母の  
 引きどめ

ト哥略拉那奥へはいらんとする。母親あれをひきどむる  
 (窩流美亞)コレ。悴母が云ふことを一通り聞てたも。コレこの母  
 のお願が。羅馬を助け。窩爾西を敗れと云へば無理ならん。されど  
 この母が頼むの。刃。又血塗らぬ平和。此沙汰。假令平和。すれば  
 して。更。窩流西の損。あらず。却。失費。亡命の愛。なしま。羅馬  
 の方。よ。若。志。平和。となる。とき。人々の悦。い。か。ば。う。り。な。た



を尊び慕ふこと。また前日此比ならず。殊に戦争の勝敗は時機人  
 敷に依るといふ。天運またこれに與れば。勝もきまりしむを  
 をなし。よし又たそなたが勝利もせよ。夫れが爲めお名譽を汚  
 し。末世末代お至るまで。哥略拉那と云ふ奴は。情を知らぬ惡黨を  
 此と傳へ。く。て。罵られん。コ。ン。倅このの道理を辨まへて。とふぞ  
 平和に済ませせ異りや。これこの通り母親が。手を合せ拜ませ  
 す。嫁女のなせ泣て居る。孫も來て頼て異りや  
 上「やい此く母親が。勸むる詞も妻や子も。互いのふと走り寄  
 り頼むく。と右左前後より取り付けば。海を覆へし山を裂く  
 迫が豪氣此健雄を。親子夫婦の天繩も。五臓をひつしとメ付け  
 られ。物を得云いず茫然と。後先見廻りす計りなり。母の一きは  
 聲を高く  
 此処物てよろしくある

(窩流美亞) コ。ン。倅あのよふに頼て。まだ聞き入れて呉れぬか。コ  
 ン。倅どふじや。返答を聞おせぬ。あ。ア。あれまで云ふも返答せ  
 ぬはソリヤ。何う。我々の願を侮るのか  
 (哥畧拉那) ニ  
 (窩流美亞) 如何程云ふても益ない事やれ。く。をふ羅馬へ歸りま  
 せふ。ろしてろなたが攻め來たら。嫁や孫と一所死なませふ。コ  
 ン。嫁女。何を泣きのじや。必ならず嘆くことのない。あやつひ最早  
 我子でない。そなたも取て。夫でない。夫婦の縁が切れた上は。あ  
 の孫に取を赤此他人。他人此所居るよりは。早く歸りて死お  
 ませふ孫も立ちや。これ嫁女來やらぬ  
 (窩留路利) とは言へどふを  
 (窩流亞美) エ、聞き分けの悪るい。必ず心配するなど云ふのよ  
 上「目で知らすれば。それと察し。そんなら。ふと立上り。三人手よ



手を繋ぎ合ひ。出て行なりを見るよりも。哥畧拉那は魂飛び  
(哥畧拉那) ア、コレ母上様。暫くお待ち下され  
上「言ふより早く走り寄り。滴たる涙ふり拂ひ

ト哥畧拉那。窩流美亞の側より走り寄り  
(哥畧拉那) ア、母上様。あれまで強面を申せしおど。どふぞ御堪忍  
なされ。被下ませ。羅馬は決して攻ませぬ。羅馬は決して焼きま

せぬ

(窩流美亞) ナ、そりや吾々の願を

(哥畧拉那) いかよとお聞き申しました。ア、母上様。あなたは羅馬  
の人民よ。この上もなき幸福を。よふお恵となされまし。去りな  
がら。の代りよ。某は恐ろしい危難をお與へなされしぞ。イヤ  
ナ、塙腓丟士殿。もふ某の何を申さぬぞ。今御見聞被下し通り故。  
萬事御推量被下し。併し窩爾西の害となること。某誓え圖ひ

申さぬ故。何卒悪く思ひ給へるな

(塙腓丟士) 某とを情を受け。人類なれば。御同様お心ひかされ  
て御坐る

(哥畧拉那) 某が誓を破りし段。容易ならざる儀なれども。引くにひ  
あれぬ。今の有様。あゝの処を御推量被下。その後此事共。萬事よろ  
しくお取圖ひ被下るべし

(塙腓丟士) 承知致た。然ば某はこれより返軍致し。貴殿のお國歸を  
相待ち申さん

(哥畧拉那) さらば某あれより羅馬の議事院に至り。窩爾西國此都  
合好きよ。ふ。悪うらぬ條約を取結び申さん。先ハそれ迄

(塙腓丟士) さらば

(哥畧拉那) きらば  
ト塙腓丟士與へはいる。哥畧拉那よろしく在る



(哥略拉那)ア、母上始め皆の婦人達ハ。伊太利全國の劍ふを。又た兵士より。優れる手柄をなされし。何は死もあれ議事院へ  
(一同)サア一所又参りませふ

○七幕目 大詰

哥略於利府公會場の場

本舞臺物て集會場の休。あゝ。又。埃腓丟士及び十人計の貴族  
それ。列正しく居並び。哥略拉那の歸を待ち居る。これ。地  
へ。哥略拉那。十人計の兵士を引連れ。花道より出で来る。  
但し。皆々はなや。ある。出で。扮ぢ

(哥略拉那)ろれに居召さるは埃腓丟士殿。哥略拉那唯今着府致し  
を御坐る。イヤナ。各方。某。い。あれ。まで。羅馬の大將なりしか。今  
日より。改。て。窩爾士國の兵士となれば。宜しく。用。に。被。下。度

し

ト軍帽を脱し。禮を施さる

イヤナ。埃腓丟士殿。某貴殿と別れ。より。羅馬の執政と談判致  
し。窩爾西。此名譽利益を保存する。これ上。を。あ。き。條。約。を。取。り。結。び  
て。歸。て。御。坐。る。イヤ。あれ。を。御。覽。被。下

ト懷より一通を差出す

(埃腓丟士)ア、イヤ。夫れを讀む。い。及。ば。ぬ。コレ。各。方。あ。れ。は。行

む。罪。人。を。權。力。兵。威。を。乱。用。せ。ま。大。逆。人。と。お。呼。び。な。さ。れ

(哥略拉那)エ、スリヤ。某を

(埃腓丟士)い。に。も。大。逆。人。の。改。亞。斯。馬。爾。士。亞

(哥略拉那)ナ。馬。爾。士。亞。と。い

(埃腓丟士)知れた。と。だ。吾。領。内。哥。略。於。利。に。於。て。哥。略。拉。那。と。云。へ  
る。榮。名。を。盜。み。し。羅。馬。に。改。亞。斯。馬。爾。士。亞。を。あ。の。某。が。見。す。々



々許し置くも心得るう。又た此度我慈悲を以て。冥加も餘り志  
 大役を。言ひ付けられしも願みず。二條三條此女の涙も。自分の心  
 を奪ひ取られ。誓を破り決心を翻へし。義理も恩も辨まへざる。國  
 威亂用の大逆人

(哥略拉那)

エ、ハ、ハ、ハ、おんど

(奥膳手士)

なんどと口賢し。これよ言譯が出来ると思ふか

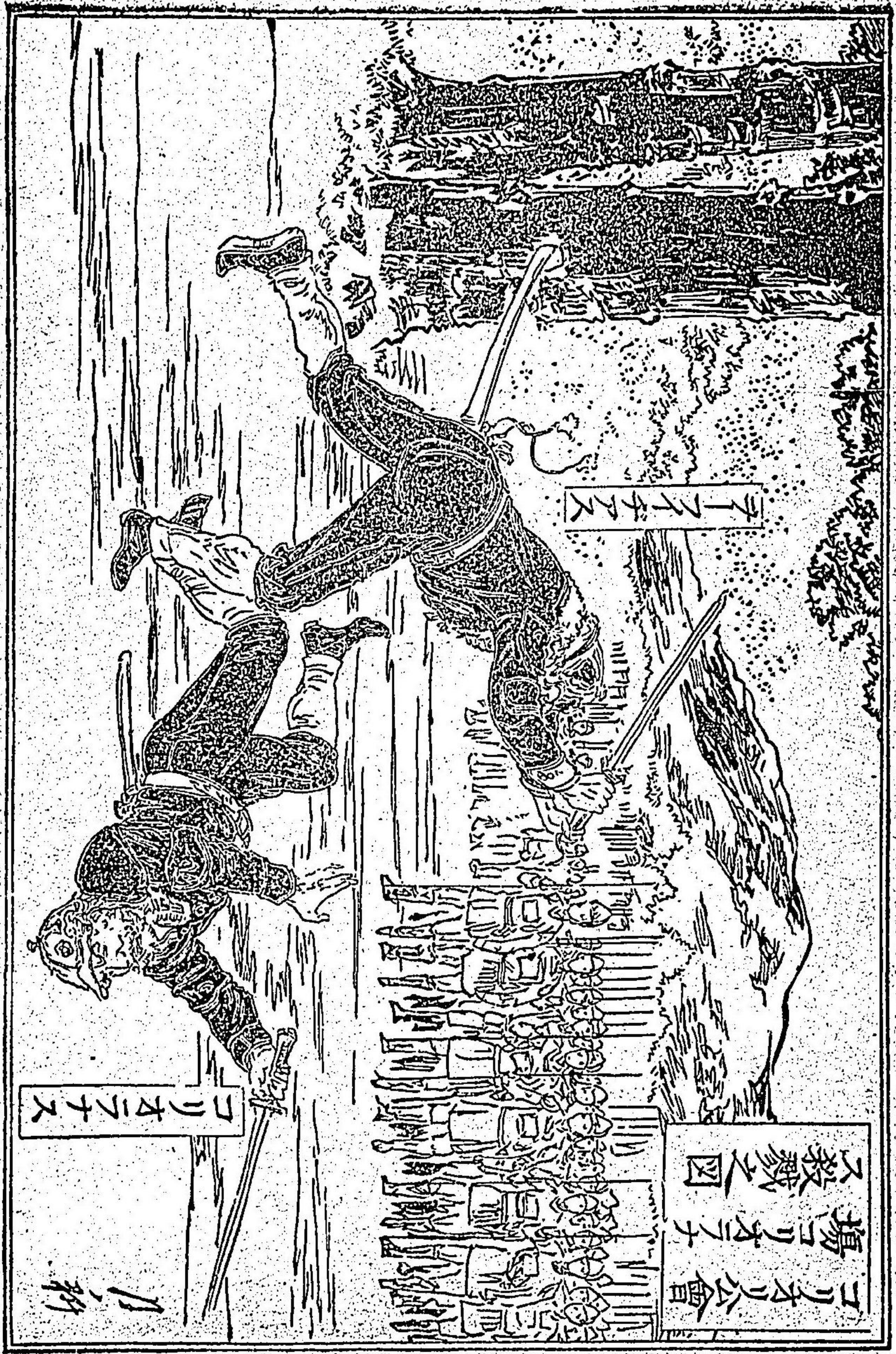
(哥略拉那)

ヤいろこな詐り者奴。先おは平和を許しながら。今とな

りて我を陥れ。宿年の怨を晴さんとい。反覆常なきなまくら武士。  
 さふとは知らず欺まきれ。力を尽せし残念さよ。モッあふなつ  
 ては命も名譽も惜くさい。サアそこな螂蛆原。まつあのかく裂き  
 取れよ

ト持たる條約書を引き裂く

(奥膳手士)言ふよや及ぶ裂き取らん。者共りこれ





(兵士)ハ、

ト拔連れて立てる

(二人は貴族) コレ暫く静まれよ。必あらず乱暴なすべあらず。仮令罪はあるにせよ。彼れも一個の尊むべき人の名に我國に隠あし。イヤナニ大將の度此こと。丈けは何卒安隱にお濟せ。被下(哥畧拉那) イヤ丈夫此詞の金より堅し。如何ぞ許を受けんや。假令幾百人の塊。臍士立かるとも。凡人ならぬ。哥畧拉那が。刃の鏑とあし。呉れ

(臍士) 終に臨みて無だ口きく。ヤイ者共何を愚圖く。猶豫ふのだ。汝等の父兄を殺せし。馬爾士亞。仇を報ゆるは此時なるぞ。(一同)ハ、

(一人の兵士) コリヤ馬爾士亞。去年哥畧於利の戦にて。吾父を手より奪らん。サア親の敵尋常の勝敗致せ



(哥魯拉那) ヤア五月蠅き螂蛆原。一人宛の面倒だ。埃腓丟士も一緒よのこれ  
(兵士) ソレ

ト立ゐる双方立廻りよろしく在る。どゞ兵士叶はずまて上  
下へはいる

(埃腓丟士) ヤア言甲斐なき奴等かな。イデ引導渡しを呉れん

(哥魯拉那) 引導をばとこがまし。去年哥魯於利の取よて。後を見せ  
たる卑怯者吾手並み懲りませず。飛て火入る夏の虫。首を堅固  
に戦へよ。今度は用捨致さぬぞ

(埃腓丟士) 何を小癪な

ト兩人戦ふあとよろしく在て。哥魯拉那深手よ弱り後へよ  
ろた。埃腓丟士哥魯拉那の肩を切る。哥魯拉那地よ倒れる

あともて幕

自由の答 豪傑 一世鏡 畢  
恩愛の

明治廿年八月十二日 版權免許  
同廿一年三月十七日 印刷  
同 年三月 日出版御届

(定價三十錢)

譯述者 廣嶋縣平民 板倉 興太郎

神田區駿河臺南甲賀町四番地  
厩谷國三郎方寄留

發行者 愛知縣平民 斯波 二郎

東京淺草區三好町五番地  
宮城縣平民

印刷者 佐藤 盈三

東京日本橋區新右衛門十  
番地

大賣捌 精文堂

東京日本橋區大傳馬町二  
丁目九番地



陸軍大將有栖  
川宮殿下題字  
帝國大學總長  
游邊洪基君序  
山本正修君譯

自 米國大統領  
**グラント一代記**

一名南北戰爭記

定價金三圓  
正價壹圓卅錢  
八百五十一頁  
洋綴極美本  
地圖并挿画八

抑此グラント將軍タルヤ始メハ田舎ノ**百姓**ヨリ起リ終ニハ大統領ニ選マレ  
シ人ニテ終焉ノ際ニ至リ漸ク此書ヲ脱稿セシモノニテ死後其令夫人之ヲ出版セ  
シニ其報告ノ字内ニ達スルヤ世人ハ將軍ヲ欽慕ノ余リ争テ之ヲ購讀スルニ記事  
ノ爽快論說ノ正確果シテ欽慕スル所ニ背カズ是レカキ**數十萬部**ノ多額  
ヲ賣却シ令夫人ハ現ニ陶朱ノ富ヲ致セリト云々此書タルヤ將軍ノ事蹟經歷洩サ  
サルハ勿論善惡忌厭ノ行事毫モ忌憚ナク之ヲ記載ス殊ニ世界ニ轟キシ**南北**  
**戰爭**及ヒ墨西哥ノ軍事等智略雄辯臨機應變ノ處置ハ讀ニ及テ全身震慄シ又  
ハ抱腹絶倒ニ堪ヘザルヲアリ實ニ英雄俊傑ノ述作ト云ベシ諸君ヨ**青雲**  
ノ望ミアラバ先此書ヲ讀テ將軍ノ人ト成リテ知察セバ亦以益スル所尠ナラズ  
殊ニ武官ハ**軍略**ヲ知リ商人ハ**商略**ヲ察ス人タル者能ク此書ヲ玩味セバ  
人ノ**智愚**モ測ルニ足レト同好ノ諸君購讀シテ此言ノ虐ニ非ルヲ知リ賜ヘ

東京日本橋區大傳馬町二丁目九番地

發行所 **精文堂**



(U6F-6)



三ノ下

ナ



